

急性循環不全改善剤

劇薬、処方せん医薬品^{注1)}

日本薬局方

ドバミン塩酸塩注射液

※※ イブタント® 点滴静注50mg

イブタント® 点滴静注100mg

※※ イブタント® 点滴静注200mg

EVTANT INTRAVENOUS INFUSION 50mg/INTRAVENOUS
INFUSION 100mg/INTRAVENOUS INFUSION 200mg

貯 法：室温保存

使用期限：外箱、アンプルに記載

| 日本標準商品分類番号 872119 | | | |
|-------------------|-------------------------|----------|----------|
| | 承認番号 | 薬価収載 | 販売開始 |
| ※※ | 点滴静注50mg 22200AMX00632 | 2010年11月 | 2010年11月 |
| | 点滴静注100mg 22000AMX02247 | 2008年12月 | 1988年8月 |
| ※※ | 点滴静注200mg 22000AMX02249 | 2010年11月 | 2010年11月 |

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

褐色細胞腫 [カテコールアミンを過剰に産生する腫瘍であるため、症状が悪化するおそれがある。]

※※【組成・性状】

| | イブタント点滴 静注50mg | イブタント点滴 静注100mg | イブタント点滴 静注200mg |
|------|---|---|---|
| 1管容量 | 2.5mL | 5mL | 10mL |
| 有効成分 | 日局 ドバミン塩 酸塩50mg | 日局 ドバミン塩 酸塩100mg | 日局 ドバミン塩 酸塩200mg |
| 添加物 | D-ソルビトール1.25mg ピロ亜硫酸Na1.25mg pH調整剤(水酸化 Na) | D-ソルビトール2.5mg ピロ亜硫酸Na2.5mg pH調整剤(水酸化 Na) | D-ソルビトール5.0mg ピロ亜硫酸Na5.0mg pH調整剤(水酸化 Na) |
| 性状 | 無色透明の液 | | |
| pH | 3.0~5.0 | | |
| 浸透圧比 | 0.6~0.8 (生理食塩液に対する比) | | |

【効能・効果】

急性循環不全（心原性ショック、出血性ショック）

下記のような急性循環不全状態に使用する。

- 無尿、乏尿や利尿剤で利尿が得られない状態
- 脈拍数の増加した状態
- 他の強心・昇圧剤により副作用が認められたり、好ましい反応が得られない状態

【用法・用量】

通常ドバミン塩酸塩として1分間あたり1~5 μg/kgを点滴静脈投与し、患者の病態に応じ20 μg/kgまで增量することができる。必要に応じて日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液、総合アミノ酸注射液、ブドウ糖・乳酸ナトリウム・無機塩類剤等で希釈する。投与量は患者の血圧、脈拍数及び尿量により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 末梢血管障害のある患者（糖尿病、アルコール中毒、凍傷、動脈硬化症、レイノー症候群、バージャー病等）[末梢血管収縮作用により症状が悪化するおそれがある。]
- 未治療の頻脈性不整脈又は心室細動の患者 [陽性変時作用により症状が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- それぞれのショック状態において必要に応じ最初に輸液、輸血、呼吸管理、ステロイド投与等の処置を考慮する。
- 血圧、脈拍数及び尿量等、患者の状態を観察しながら投与する。
- 大量投与したとき、脈拍数の増加がみられた場合や尿量の増加がみられない場合には本剤を減量するか中止する。

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

| 薬剤名等 | 臨床症状・措置方法 | 機序・危険因子 |
|--------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| フェノチアジン誘導 体 プロクロルペラジ ン 等 | 本剤の腎動脈血流増 加等の作用が减弱す ることがある。 | 左記の薬剤はドバミ ン受容体遮断作用を 有する。 |
| ブチロフェノン誘導 体 ドロベリドール 等 | | |
| モノアミン酸化酵素 阻害剤 | 本剤の作用が増強か つ延長することがあ る。 | 本剤の代謝が阻害さ れる。 |
| ハロゲン化炭化水素 系麻酔剤 ハロタン 等 | 頻脈、心室細動等の 不整脈を起こすおそ れがある。 | 左記麻酔剤により、 本剤の感受性が高ま る。 |

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

1) 重大な副作用（頻度不明）

- 麻痺性イレウスがあらわされることがある。
- 末梢血管の収縮により四肢冷感等の末梢の虚血が起り、壊疽を生じることもあるので、四肢の色や温度を十分に観察し、変化があらわれた場合には投与を中止し、必要があればα-遮断剤を静脈内投与する。

2) その他の副作用

下記のような副作用があらわされることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

| | 頻度不明 |
|-----|--|
| 循環器 | 不整脈（心室性期外収縮、心房細動、心室性頻拍等） ^{注2)} 、動悸、頻脈 |
| 消化器 | 嘔気、嘔吐、腹部膨満、腹痛 |

注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

| | |
|-----|------------------|
| | 頻度不明 |
| その他 | 静脈炎、注射部位の変性壞死、起毛 |

注2) 不整脈が発現した場合には、抗不整脈剤を投与するか本剤の投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

高齢者では、生理機能が低下していることが多く、副作用があらわれやすいので、少量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。

6. 妊婦・産婦・授乳婦等への投与

妊娠又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

7. 過量投与

誤って過量投与した場合には、患者の状態が安定するまで投与速度を落とすか一時的に投与を中止する。必要な場合には α -遮断剤の投与等適切な処置を行う。

8. 適用上の注意

1) 投与時：血管外へ漏れた場合、注射部位を中心に硬結、又は壊死を起こすことがあるので、できるだけ太い静脈を確保するなど慎重に投与すること。

2) 調製時：

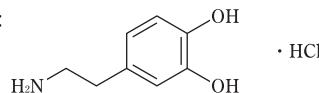
- (1) pH8.0以上になると着色があるので、重曹のようなアルカリ性薬剤と混合しないこと。
- (2) 希釈溶液として日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液、総合アミノ酸注射液及びブドウ糖・乳酸ナトリウム・無機塩類剤等がある。
- (3) アンプルカット時：本剤はワンポイントカットアンプルであるが、異物の混入を避けるため、アンプルカット部分をエタノール綿等で清拭してからカットすることが望ましい。

【薬効薬理】

末梢性に投与されたドバミンは血液脳関門を通過できず、末梢作用のみを示す。低用量のドバミンは、血管平滑筋にあるD₁ドバミン受容体に直接働き、細胞内cAMP量を増加させ、血管拡張を起こす。特に、上腸間膜及び腎での血流量を増やし、更に糸球体ろ過を増大させて、Na⁺利尿を起こす。胃副交感神経節後線維のD₂受容体に作用しアセチルコリン遊離を抑制し、胃運動を抑制する。少し高用量のドバミンは、主として交感神経終末からのノルアドレナリン遊離を介する関接作用により、心収縮力、心拍出量を増加させる。高用量のドバミンは、血管の α_1 受容体を刺激し、血圧を上昇させる¹⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】

構造式：



一般名：ドバミン塩酸塩 (Dopamine Hydrochloride)

別 名：塩酸ドバミン

化学名：4-(2-Aminoethyl)benzene-1, 2-diol monohydrochloride

分子式：C₈H₁₁NO₂ · HCl

分子量：189. 64

性 状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。水又はギ酸に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくい。

融 点：約248°C (分解)

※※【取扱い上の注意】

1. 注意

本剤はワンポイントカットアンプルを使用しているので、アンプル頭部の●マークを上にして反対方向に折りとること。

※※ 2. 安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40°C、相対湿度75%、6ヶ月)の結果、イブタント点滴静注50mg、イブタント点滴静注100mg及びイブタント点滴静注200mgは通常の市場流通下においてそれぞれ3年間安定であることが推測された²⁾³⁾⁴⁾。

※※【包 装】

※※ イブタント点滴静注50mg : 2.5mL×10管

イブタント点滴静注100mg : 5mL×10管

※※ イブタント点滴静注200mg : 10mL×10管

※※【主 要 文 献】

1) 第十五改正日本薬局方解説書、C-2717、2006

※※ 2) 東和薬品株式会社 社内資料：安定性試験(点滴静注50mg)

3) 東和薬品株式会社 社内資料：安定性試験(点滴静注100mg)

※※ 4) 東和薬品株式会社 社内資料：安定性試験(点滴静注200mg)

※【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献（社内資料を含む）は下記にご請求下さい。

東和薬品株式会社 学術部DIセンター (24時間受付対応)

〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号

☎0120-108-932 TEL 06-6900-9108 FAX 06-6908-5797

<http://www.towayakuhin.co.jp/forstaff>

製造販売元



東和薬品株式会社

大阪府門真市新橋町2番11号